

農業技術 プリズム

近年、県内の大豆栽培圃場（ほじょう）では、ホシアサガオなどの難防除雑草が発生し、従来の防除方法である中耕培土と除草剤の組み合わせでは防除が難しくなっています。そこで、一般雑草に対する防除効果が確認されている狭畦（きょうけい）栽培と、土壌中の深い位置に処理層が形成されることでホシアサガオに対する防除効果が期待できるトレファンノサイド乳剤の土壌混和を組み合わせ、県内で普及している「フクユタカ」の早まき摘心栽培でホシアサガオに対する防除効果を明らかにしました。

その結果、条間を慣行の半

分の35%にした狭畦栽培とトレファンノサイド乳剤土壌混和処理を組み合わせると、慣行の70%条間で中耕培土をせず、エコトップP乳剤を土壌

大豆のホシアサガオ防除

狭畦 + 土壌処理剤 発生量 4分の1以下

散布した場合と比べ、ホシアサガオの発生量が4分の1以下に減少し、慣行条間で中耕培土栽培をし、エコトップP乳剤土壌散布を組み合わせた

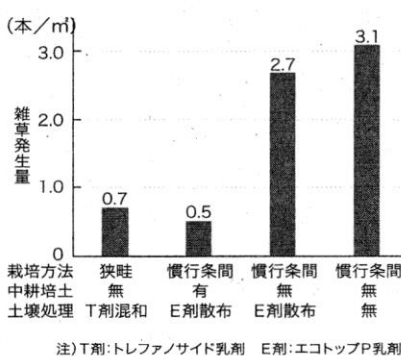


図 栽培方法の違いと土壌処理剤の有無がホシアサガオの発生に及ぼす影響

場合とほぼ同じになりました。

このことから、狭畦栽培とトレファンノサイド乳剤の土壌混和処理によって中耕培土を実施しなくても、中耕培土を行った圃場並みにホシアサガオの発生量を低減できることが分かりました。なお、トレファンノサイド乳剤の土壌混和は大豆の播種（はしゅ）直前に行います。

（長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 作物研究室 研究員 松葉一樹）